

市民とともに 平和の大切さを考える 「武蔵野市平和の日」が 制定されました

第二次世界大戦の終戦から66年が経った今も、世界では紛争やテロリズムが起き、尊い命が犠牲になっています。市では11月24日を「武蔵野市平和の日」と定めて、市民とともに平和について考えるきっかけづくりを進めていきます。

TOPICS 02



白いハト型バルーンにメッセージをつけて

被爆クスノキ2世の苗木を植樹

昭和19（1944）年11月24日、米軍の爆撃機B29による本格的な日本本土への空襲が始まりました。この日まっさきに標的となったのが、当時の武蔵野町にあった中島飛行機武蔵製作所でした。この工場は、現在の陸上競技場のあたりから都立武蔵野中央公園の一带にかけてあった、ゼロ戦などのエンジンを造る日本

最大規模の軍需工場で、以後、9回にわたり空襲を受けました。国内で最も多く攻撃を受けた軍需工場といわれ、このため周辺の住民、工場の作業員、そして学徒動員された学生たちも多数空襲の犠牲になりました。武蔵野市では、これまでも戦争で犠牲になられた方々を悼み、そして同じ過ちを繰り返さないように平和事業や国際相互理解を進める事業を行ってきました。そして平成22年に有識

者や公募市民による「武蔵野市平和施策懇談会」が設置され、今後、武蔵野市がどのような平和施策を行っていくべきかの議論を重ねられました。懇談会は平成23年1月に報告書を市長に提出し、そのなかで武蔵野市に初空襲があった11月24日を「平和の日」として制定し、市民が平和の大切さを改めて考えるきっかけの日とすることが提言されました。あわせて、平和事業を行っていくうえでの財源をより安定的に確保することも提案されました。

市では平和の日の制定を記念して、11月23日（祝）に武蔵野公会堂で『ピースむさしの 未来をひらくつどい』を開催しました



日本非核宣言自治体協議会会長を務める田上富久長崎市長と平和市長会議会長の松井一實広島市長のメッセージを代読。



邑上守正市長は「平和の日制定を機に武蔵野市から平和事業を発信していきたい」とあいさつした後、平和メッセージを発表。

境南小合唱団による平和にちなんだ歌の合唱。



武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会の牛田守彦さんが、米軍が撮影した写真などを使って歴史的な背景や武蔵製作所への空襲の史実を解説。



中島飛行機武蔵製作所に学徒動員されていた記録映画作家の羽田澄子さんが、工場での生活と空襲の体験を講話。



武蔵野地域への空襲の記録をまとめたパネル展示が、武蔵野プレイス、市役所、コピス吉祥寺を巡回。